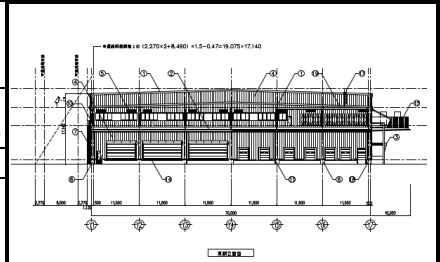


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)埼玉県熊谷市間屋町物流施設計画	階数	地上2F	
建設地	埼玉県熊谷市間屋町2丁目T800番17外	構造	S造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	210 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年2月11日	
敷地面積	16,127 m ²	作成者	山田 裕一	
建築面積	9,881 m ²	確認日	2025年4月4日	
延床面積	18,980 m ²	確認者	井ノ瀬広和	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 ガルバリウムダクトを使用している。 階高3.9m以上。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BEIm=0.0	LR2 資源・マテリアル ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。ライフサイクルCO₂排出率が52%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

(仮称)埼玉県熊谷市間屋町物流BEE

1.2

BEEランク

★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

4.9

+

2.6

=

7.5



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう
6.0未満良い
6.0以上非常によい
6.8以上すばらしい
8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減

スコア平均 4.9

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 4.9

ライフサイクルCO2排出率が52%。

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 2.6

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 2.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

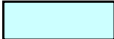
スコア 3.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 3.0

特になし。

 : 入力欄